



CQM(超短期経済予測モデル)

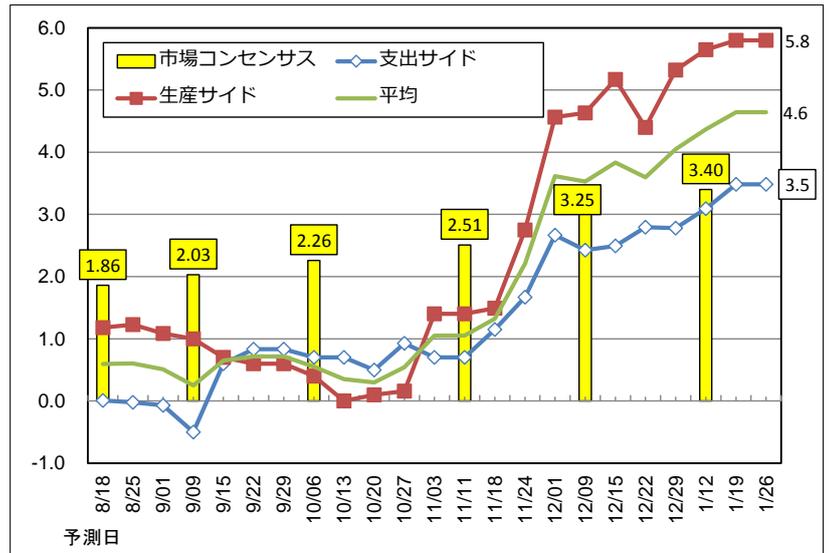
稲田義久(APIR 数量経済分析センター長)  
内容に関するお問い合わせは下記まで  
e-mail:inada-y@apir.or.jp

# 日本経済(週次)予測(2015年1月26日)

## ポイント

- ▶今回予測で更新されたデータは、実質民間企業設備及び民間企業在庫品増加の予測値に影響を与える。
- ▶12月の消費者態度指数は5カ月ぶりに前月比改善した。持ち直しがおこなわれていた消費者心理に底打ちの兆しが見えてきた。
- ▶日銀展望レポートによれば、実質成長率は前回に比して2014年度下振れる一方、15年度、16年度はともに上振れている。インフレ率は原油価格の大幅下落の影響から、14年度、15年度にかけて下振れると予想。日銀は市場コンセンサスに比して楽観的である。
- ▶今週の超短期モデルは10-12月期の実質GDP成長率を前期比年率+3.5%と予測。実質民間企業設備及び民間企業在庫品増加の予測値は先週から幾分増加したが、成長率は変化なしである。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率  
2014年10-12月期(%, 前期比年率換算)



### <依然楽観的な日銀の経済・物価の見通し>

先週更新されたデータは、12月の消費動向調査、11月の鉱工業指数(確報値)、全産業活動指数及び景気動向指数(改訂値)である。これらは、民間企業設備及び民間企業在庫品増加の予測値に影響を与える。

12月の消費者態度指数は5カ月ぶりに前月から改善した。持ち直しがおこなわれていた消費者心理に底打ちの兆しがみえる。うち物価見通しを見れば、物価が1年後に「上昇する」と答えた割合は7カ月ぶりに前月から低下。一方、「低下する」と答えた割合は2カ月連続の上昇。足下ガソリン価格の下落がインフレ期待の低下に影響しているようである。

11月の資本財出荷指数(確報値)は前月比-2.2%低下し、速報値から幾分上方修正された。結果、10-12月期の実質民間企業設備の予測値は先週から小幅上方修正された。11月の最終需要財在庫指数(確報値)は前月比+0.1%となり速報値から小幅の上方修正。結果、10-12月期の実質民間在庫品増加の予測値は先週から幾分上方修正された。

日銀展望レポート(1月)によれば、10月レポートに比して、実質成長率は2014年度について下振れる(+0.5%→-0.5%)一方、15年度(+1.5%→+2.1%)、16年度(+1.2%→+1.6%)はともに上振れている。コア消費者物価インフレについては、基調的な変化はないが、原油価格の大幅下落の影響から、14年度、15年度にかけて下振れると予想。16年度はおおむね不変である。日銀は超短期予測や市場コンセンサスに比して依然楽観的である。

今週(1/26)の超短期モデル(支出サイド)は、10-12月期の実質GDP成長率を前期比+0.9%、同年率+3.5%と予測。民間企業設備及び民間企業在庫品増加の予測値は幾分上方修正されたが、成長率は先週の予測から変化なし。結果、2014年の実質GDP成長率を暦年ベースで+0.2%、年度ベースで-0.7%と予測している。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 [contact@apir.or.jp](mailto:contact@apir.or.jp) 06-6485-7690